

2014/03/24 知床ツアー・知西別岳単独（森川昌太郎）

大学3年の春休み。「実はここまで暇なのは今だけかもしれない」と、22歳なりの焦りを感じこのような行動にでた。「単独で登る」というのは今シーズンの密かな野望でもあった。

03/22

夜11時ごろの夜行バスで札幌から斜里へ。目的地は羅臼。

03/23

朝5時ごろ斜里着。天気もいいので2時間くらい町??を散策。おもしろいものは特に見つけれなかった。というか、どこもまだ開いてなかった。ヒッチハイク2台乗り継ぎ羅臼まで行った。ワングル時代お世話になったことのある羅臼礼文町の宿「とおまわり」で、きんき、かれい、たち、しいら、刺身や鹿肉など食べさしてもらい大満足。

03/24

朝5時前にゲートのある熊の湯まで送ってもらう。大変感謝してます。天気は最高。高気圧圏内で南の暖かい風が吹き始め、気温は7℃まであがるとの予報。林道をショートカットしまくり見返り峠まで。相変わらずの無様なトレースを描く。林道も雪崩の気をつけるところがあると情報を得ていたがよくわからなかった。8時峠着。登る尾根もピークもぼんやり見えているが風が気になり始める。羅臼湖を横切り登り始めまで途中風が強いので時間待ちがてらご飯を食べたりゆっくり行く。登り始めるとすぐに雪が硬くなる、952にあたりで早くもスキーを脱ぐ。シートラで50mくらい上げたが重くて疲れたのですぐにシールドポそこからツボで尾根をあげるもますます風は強くなる、1050くらいからアイゼン。ピッケルを持ってこなかった事を後悔した。今まで経験したことのないような風を受ける。でもアイゼンがしっかりきまっているので怖くはなかった。立つと状態が煽られるので低い体勢で少し進める。いつの間にか1210地点の肩の肩が自分のなかでピークと錯覚していて、そこにあがるとピークの遠さに絶望した。稜線上はさらに風が強くなるとも考え、時間も自分で予定していた折り返しの時間くらいだったのでここで引き返すことにした。天気は最高。羅臼岳、硫黄?、羅臼、ウトロ、両サイドの流氷、国後島まで視界は無限。こんなにも晴れているのにピークに行けない悔しさが残った。羅臼湖までちゃっと下山。気が緩んだのか、見返り峠までの道で迷う。途中からまったく分からなくなったが地図とにらめっこしながら進めていくとしっかり見返り峠についた。結局ほとんど同じ道を来ていたのだが、余計に時間がかかっていた。えらく頭を消耗したので帰りはほとんどショートカットせずに道路をだいたい滑るもスピードがでなくて面白くなかった。15時過ぎ熊の湯下山。熱い温泉に入り無事下山できたことに一安心。宿で荷物を回収してからヒッチハイクで帰路につくが日が暮れはじめ結局、羅臼の春日町までしか移動できず、その宿で素泊まり寝袋持参で1300円で泊めてもらう。羅臼の漁師さん20歳にヒッチハイクで乗せてもらい自分よりも年下の人が仕事をし、お世話になり、遊んでばかりの自分が少し恥ずか

しくなった。帰ったら勉強しよう。

03/25

朝8時からヒッチハイク開始。1台目で中標津まで。2台目で釧路まで。釧路で腹ごしらえしたり、1時間くらい歩いてヒッチハイクポイントを探し、またヒッチハイク開始。なんと手を挙げた瞬間トラックが止まってくれた。開始1秒でヒッチハイク成功。(笑)帯広まで送ってもらう。帯広の友人の家にとまらせてもらう。

03/26

帯広の友人の友人が就活のため、朝から札幌に行くということで便乗する。そんな感じで札幌まで帰ってきました。

遠く知床まで行ったのに山に入ったのは1日だけ。それでも満足のいく山行ができました。計画段階から不備が多く、たくさんの人にアドバイスをもらい、基本的なことから教えてもらい、宿の人やヒッチハイクで乗せて頂いた人、帯広の仲間たちといった多くの人にお世話になり楽しい知床旅行ができました。ありがとうございました。

